

秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会における意見と市の対応について

- 秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会について
秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理に当たり、外部有識者から意見を聴取し、前年度までの実績に関する効果検証と、次年度に向けた見直しについて検討する。
- 主な意見と市の検討内容および結果について
秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略および地方創生推進交付金・地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用事業の進捗状況等に対する委員の意見と市の対応等を整理した。

秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について			
No.	意見内容	意見に対する市の検討内容	検討を踏まえた市の対応結果
1	<p>施策「子どもの安全安心の確保」に関して、KPIを「放課後児童クラブ登録児童数」としているが、全施設の定員数の合計を分母として、登録希望児童数を分子として計算した値を目標値としてはどうか。</p> <p>また、保育所等の施設にも言える事だが、特に子どもを育てる場所においては、量の確保と同時に質の確保も重要だと考えており、どのようにして質を確保し、それを評価していくのか、という点について、検討してもらいたい。</p>	<p>【子ども未来部】</p> <p>目標値について、秋田市子ども・子育て支援事業計画の目標値と同様としていることから、令和2年4月からの次期当該事業計画の策定にあわせて検討する。</p> <p>また、放課後児童クラブの質の確保について、令和元年度から秋田市放課後子ども総合プランコーディネーターが各クラブを巡回し相談等に対応し、質の確保にも努めている。</p> <p>なお、保育所等における質の確保については、指導監査における指導・助言のほか、各施設から寄せられる個別の質問や相談等に対応する体制の構築や、各施設に共通する課題の解決に向けた研修機会の充実について検討するとともに、質の評価方法についても検討する。</p>	<p>【子ども未来部】</p> <p>秋田市子ども・子育て支援事業計画に合わせた目標指標および目標値としていることから、現段階で変更の予定はない。</p> <p>放課後児童クラブの質については、放課後子ども総合プランコーディネーターが各クラブを巡回し相談等に対応しているほか、放課後児童支援員を対象にした指導者研修会を実施するなどにより、その確保に努めている。</p> <p>保育所等の量の確保については一定の目処がついたことから、今後は質の向上について取り組んでいく。指導監査とは別に、園内研修への参加・助言、他園の先進的な取組の情報提供を行うとともに、保育士が働きやすい環境となるよう、指導・助言を行う。なお、当面の間は質の向上に注力することとし、評価については、引き続き検討していくこととする。</p>
2	<p>児童館の児童厚生員について、短期間で配置転換させないようにできないものか。</p>	<p>【子ども未来部】</p> <p>児童厚生員について、職員の退職等により、経験が浅い職員だけの配置にならないよう、児童館全体のバランスを考慮し、児童館の運営体制に支障が無いように、適宜、人事異動等を行っている。</p>	<p>【子ども未来部】</p> <p>児童厚生員について、職員の退職等により、経験が浅い職員だけの配置にならないよう、児童館全体のバランスを考慮し、児童館の運営体制に支障が無いように、適宜、人事異動等を行っている。</p>
3	<p>全体を通じて、絶対数の目標値に関しては、人口動態などを考慮した相対評価を副次的に行った方が良いのではないか。例えば、『放課後児童クラブ登録児童数』などは、市内の児童数が減少していることを勘案すると、もっと評価されても良いように感じる。</p>	<p>【企画財政部】</p> <p>来年度以降、「進捗状況の説明」欄に、相対評価による効果検証の結果についても記載することを検討する。</p>	<p>【企画財政部】</p> <p>来年度の検証に当たっては、必要に応じて副次的に相対評価を行うなど、これまでの取組の成果や課題について、より詳細な分析・検証を行うこととし、次期総合戦略におけるKPIの設定等に生かしていく。</p>
4	<p>地元の中小企業は、人材確保・人材育成に課題を抱えており、採用活動に消極的な企業もあると聞く。中小企業の採用活動を後押しするとともに、若者の地元企業への定着を促すため、新卒者の採用や人材育成に関する取組を対象とする支援制度について、既存事業の拡充を含め、検討をお願いしたい。</p>	<p>【産業振興部】</p> <p>本市では、平成31年2月に施行した秋田市中小企業振興基本条例の基本方針に「中小企業の事業活動を担う人材の育成および確保を図ること」を掲げ、若者の安定した雇用の拡大による地元定着の促進などに取り組んでいる。</p> <p>現在、同条例に基づき、中小企業振興施策の総合的な推進を図るための指針の策定や、関連施策の検証・評価を行っているところであり、今後これを踏まえ、中小企業の人材育成や職場定着を支援するため、既存事業の拡充や新たな施策を検討していく。</p>	<p>【産業振興部】</p> <p>市内中小企業の人材確保を支援するとともに高校生・大学生の地元就職を促進するため、秋田商工会議所等との連携により、市内企業の情報発信やマッチング機会の創出を図る新たな取組を実施していく。</p> <p>また、正規雇用者・個人事業主向けの資格取得助成制度において補助率引上げを予定しており、引き続き、人材育成の支援による若者の地元定着を推進していく。</p>
5	<p>「ホームスタジアム(アリーナ)での平均観客動員数」を増加させるためには、チーム力の強化が課題とのことであるが、チーム成績にかかわらず、地域で応援する機運を高めていくべきではないか。</p>	<p>【観光文化スポーツ部】</p> <p>試合会場周辺や秋田駅前大屋根下に幟や大型バナーを設置しているほか、秋田駅構内にホームゲームを告知するなどの取組により、市民球団としての愛着と応援機運は高まってきており、観客数は増加傾向にある。</p> <p>引き続き、各チームと連携して地域で応援する機運の醸成に努め、観客数の増員を図っていく。</p>	<p>【観光文化スポーツ部】</p> <p>各チームと連携し、試合会場や秋田駅前周辺に、チームの幟や大型バナーを掲示したほか、秋田駅構内でのホームゲーム告知を継続し、市民の応援機運の醸成に努めた。</p> <p>しかしながら、観客数がチーム成績で左右されてしまうことは引き続きの課題であるため、今後はサポーターなどと連携を図り、応援機運の醸成とともに、観客数も増加される取組について検討していく。</p>

No.	意見内容	意見に対する市の検討内容	検討を踏まえた市の対応結果
6	<p>千秋公園のハスは、魅力ある観光資源であり、もっと有効に活用できないものか。例えば、ハスの見頃時期に広小路を歩行者天国にする、千秋公園のお堀に橋を架けるなど、観光地としての魅力を高めるための取組を行ってはどうか。</p> <p>また、秋田駅を降りた観光客から、千秋公園の案内が不十分との声を聞いたことがあるため、ハスのPRも含め、案内を充実させるよう、願います。</p>	<p>【観光文化スポーツ部、建設部】 お堀のハスは、千秋公園のみならず中心市街地の魅力ある観光資源の一つと捉えている。</p> <p>平成29年度に策定した千秋公園再整備基本計画では、さらなる魅力向上につながる施策として、ハスがある大手門の堀に遊歩道を整備することとしているが、実施には相応の準備期間を要することから計画時期を中期と位置づけている。</p> <p>今後、景観や安全面等に配慮した線形等について検討していく。</p> <p>また、千秋公園およびハスについては、ホームページや観光パンフレット等に写真を掲載して紹介しているほか、秋田駅中央改札口にも案内板を設置しており、引き続き、PRに努めていく。</p>	<p>【観光文化スポーツ部、建設部】 千秋公園およびハスの魅力を広く周知するために、ホームページや観光パンフレット、観光客向け贈呈用封筒等に写真を掲載して紹介するなど、PRに努めた。</p> <p>大手門の堀の遊歩道については、景観や安全面等に配慮した線形等に関する検討など、整備に向けた準備を進めていく。</p>
7	<p>「住宅用太陽光発電システム設置延べ件数」は、目標達成が困難な状況となっているが、次世代住宅ポイント制度など、省エネルギーに関する取組を継続してもらいたい。</p>	<p>【環境部】 「住宅用太陽光発電システム設置延べ件数」の目標達成は困難な状況であるが、設置件数が増えていることから補助制度を継続し、新(省)エネルギー設備の導入拡大に努めていく。</p>	<p>【環境部】 住宅用太陽光発電システムの設置件数は増えていることから補助制度を継続し、新(省)エネルギー設備の導入拡大に努めていく。</p>
8	<p>市民交流サロンの活動件数の減少については、サロンそのものの問題ではなく、駐車場や広報などの利便性、周知性の問題の方が大きいように思われる。そうしたことも含めて企画を検討すべきである。</p>	<p>【市民生活部】 ホームページやFacebook、パンフレットなどを活用して周知を図っているが、今後も継続するとともに、利用者ニーズを的確に捉えて、利用者増加に結びつけたい。</p> <p>また、駐車場の利便性については、利用者の声を聞きながら検討していく。</p>	<p>【市民生活部】 市民交流サロン利用者に限らず、市民交流サロンの企画、機能、利便性などについて市民活動団体のニーズを捉えるために、現在、状況調査を行っているところである。</p> <p>本調査の結果を分析し、利用者増加につなげていきたい。</p>

地方創生推進交付金・地方創生応援税制活用事業について

No.	意見内容	意見に対する市の検討内容	検討を踏まえた市の対応結果
1	<p>農業ブランド確立事業のKPIのうち、「新設した食品加工施設の雇用創出人数」の実績が上がっていないが、市としてどのように協議会に働きかけたのか。</p>	<p>【産業振興部】 農業ブランド確立事業のうち「一次・二次加工施設整備」については、平成30年度における雇用創出人数の目標を10人として事業を進めてきた。</p> <p>具体的には、JAや秋田商工会議所、県、市で構成する「秋田市地場産品食材加工施設整備構想検討協議会」を立ち上げ、初年度の平成28年度に食品メーカー等の市場ニーズと原材料の供給調査、29年度に調査結果をもとに加工食材の検討と県外の加工メーカーの視察等を実施し、30年度以降にJAが主体となって施設整備を進めることとしていた。</p> <p>しかしながら、実施主体であるJAが、平成30年4月の合併に伴う事務を優先的に行う必要があったことや、事業の採算性などの課題もあり、事業が進展しなかった経緯がある。</p> <p>このため、今年度以降は、食品加工に意欲的な市内の食品加工事業者を協議会のメンバーに加え、民間事業者の主導により、実現に向け調整を進めていくこととする。</p>	<p>【産業振興部】 食品加工事業者を新たに協議会のメンバーに加え、構成員であるJAとも調整を進めながら、当該食品加工事業者による施設整備を支援したところであり、来年度もさらなる設備投資に対する支援を予定している。</p> <p>これにより、えだまめを主要品目とした食品加工施設の整備が進みつつあるとともに、新たな雇用創出が見込まれているところである。</p> <p>今後は、学校給食でのえだまめ加工品の利用促進に向け調整を進めていくとともに、販路の開拓などについて引き続き支援を行っていく。</p>